旧村川別荘だより

平成 24 年 4 月 8 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会　文化・スポーツ課
歴史文化財担当：辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583（直通）
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.

文京区へ行きました♪

９ 時半に、湯島の駅の改札外に集合！ひとりの遅れもなく時間前には出発できました（＾＾）さすがです。

ちなみに、今回は６名の参加とこじんまりと月例会です。でも、これはこれで小規模に楽しく散策です♪

１箇所目は、湯島天神です。湯島天神目指して、元気に出発！おしゃべりも弾みます。

今回は、みなさんがたぶん自分やご家族の合格祈願などに行かれた時に通った表通りではなく、細い裏路地からアクセス・・・。

急な階段が目の前に。こちらは男坂。右側に梅林があってなかなか風情があります。足に自信のない方は右の方に女坂というなだらかな道もありました。全員とも男坂から上りました。そう、まだまだこれからですし。

菅原道真公に学問成就、そのほかをお願いしました。

境内の梅の美しかったこと！お天気の良かったこともありますが、本当に見事でした。屋台がたくさん出ていて、にぎわっていましたよ～。

文京区は坂の多い街でもあります。我孫子との共通点でもありますでしょうか。

坂を上り、階段を上り、車の通れない公道もここでは普通にあります。これも歴史を語る大事な証人・・・。

などといっぱしのガイドぶっていると、路傍にこのような説明板が・・・「炭団坂」。郷愁をそそり、また、この坂のイメージをよく表している命名に感服。日本人ってすごいですよね。確かにこの坂を転がり落ちたら、タドンのようになってしまったことでしょう。

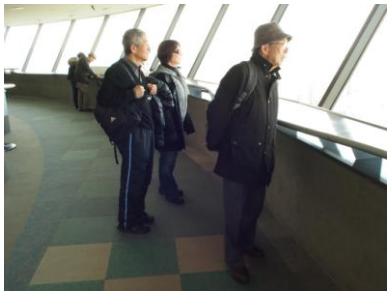
女５人で「炭団って？」の井戸端会議。「豆炭のことでしょ？」「もう少し大きい木

炭のことじゃないの？」→はい。帰ってきて調べました。新村出先生の広辞苑によれば「木炭・石炭の粉末にふのりなどをまぜ、球状に固めて乾かした燃料」のことでした。

さて、そうこうしているうちに次の目的地に着きました。今日のメインディッシュ、文京ふるさと歴史館です。企画展示「伯爵家のまちづくりを見学します。

この企画展示を企画なさった学芸員さんの加藤さんがすばらしい解説をしてくださいました。

文京区西片の一帯はかつて、福山藩阿部家の丸山屋敷でした。その阿部家が、明治、大正と近代化の流れに合わせて、いえ、それ以上の先進的なまちづくりを行ったという内容が展示されています。道路や井戸の整備、下水溝やゴミ捨て場の整備、管理を行い、土地を区画割して貸出し、建物を建ててもらってよりよい街を作っていった経緯などが分かります。当初（明治）から、湯屋や下宿などの禁止が定められ、すでにこのときに都市計画的な観点で事業が進められていたことがうかがえます。帝国大学などに近かったことや、また、このような魅力的なまちづくりがあったことによって、多くの学者や文人が居を構え、“学者町”と呼ばれるようになったのですね。



なんだか、ここまででもとっても満足な時間を過ごしたあと、ランチ！区役所の展望レストラン（なんと椿山荘の経営）で高楊枝をしました（＾＾）（「食わねど」じゃないけど）

そして、展望台から東京を一望！スカイツリーもよく見えました。

お次は講道館です。嘉納先生の銅像の前で集合写真をぱちり！講道館の資料室を見学させていただきました。嘉納治五郎の若いころの写真や肉筆、そのほか人柄が偲ばれるものなど多数展示されています。

そして、防災公園に寄り、東京の復興と布佐の復興を重ね合わせたりしました。

最後に、写真はありませんが、東京都の水道歴史館によって昔の水道管や水道事業の歴史に触れて、足も棒のようになってきた（編集Kが運動不足なだけ・・・）のを機に散会といたしました。

ご参加いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

次回の月例会は・・・

平成 24 年 4 月 16 日（月）に旧村川別荘新館にて行います。ぜひ、ご出席ください。生まれ変わった村川をご覧いただきたいと思います。（新館の屋根だけはまだですが・・・。）

新年度となりました。西沢新課長、新しく配属となりました鈴木主幹、種主事、そして辻、工藤は変わらずです。今年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

旧村川別荘だより 61

平成 24 年 4 月 26 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会　文化・スポーツ課
歴史文化財担当：辻、工藤、種
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583（直通）
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.

新館・母屋の修繕がひと段落しました！

無事に旧村川別荘の新館・母屋の修繕がひと段落し、４月 17 日から一般公開を再開しました！

今月の月例会は、４月 16 日（月）に新館で行いました。久しぶりに足を踏み入れた皆さんからは感嘆の声が・・・。

ガイドの皆さんには、公開に先立ち生まれ変わった２棟を見学していただきながら、修繕箇所の説明をしました。

まず新館の寝室から。

寝室の床はビニールシートを剥(はが)して一般的な木目フローリングにする予定でしたが、大工さんが頑張って他の２部屋と同じ、寄木モザイクのフローリングにしてくれました。

元々ビニールシートが張られる前の床は寄木モザイクのフローリングだったようなので、復元したことになります。今は床が貼りたてで新しさが感じられますが、経年変化で、他の部屋の床と同じようにあめ色に落ち着いてくるそうです。

また、ガラスケースを入手できたので、村川堅固、堅太郎両先生の著書を展示しました。

ゆくゆくはもう１つ展示コーナーを増やし、展示の充実を図りたいと考えています。

トイレも改修し、灰墨漆喰(はいずみしっくい)（ねずみ漆喰）に塗り直しました。灰墨漆喰とは、一般的な白漆喰に左官さんが墨汁を混ぜて色を調節して塗る漆喰だそうです。熟練した左官さんは、色の濃さを自在に調整できるとか。まさに匠の技！

今はかなり濃い色ですが、こちらも時間を経て漆喰の水分が抜けてくると薄い灰色に変わっていくそうです。時を経てなじんでゆくのが楽しみですね。

入ってすぐの部屋の天井や柱などが他と比べて新しく見えますが、これは改築したのではなく、灰汁洗いと言って部材を脱色してきれいにしたようです。天井の一部にシミがあるのは、おそらく脱色後の雨漏りでできたものかと思われます。脱色すると、古い建物ならではの趣がなくなってしまうので、天井のシミはそのまま残しました。

続いては、母屋について。

壁の白漆喰を剥したところ、元は灰墨漆喰だったことが判明しました！新館と同じように灰墨漆喰を塗り直して復元しました。

また、掛け時計を部屋の雰囲気に合わせて、趣あるねじ式の振り子時計に変えました。

床の間の落とし掛けの木材は、調べたところ黒柿と言って、柿の木の芯にあたる部分を使用したものです。

非常に硬く、現在では希少な木材で、探すのは困難だったそうです。

母屋は元々我孫子宿本陣離れを解体移築したと考えられていますが、欄間など、さまざまな部材を集めて転用しているようです。当時はよい部材は解体後に転用することは一般的だったようです。

縁側の床は置き畳を敷いていましたが、傷んでいたので取り外し、元の板張りに戻しました。

ガラス戸の上部がたわんで建付けの悪い箇所は見えない部分をワイヤーで吊り上げて組み直し、一見手を加えてないように見せています。

最後は庭について。

北側の境界は、鉄筋もあまり入っていない空洞ブロック造で危険があったことと、内側の見通しが悪かったので、堅固先生の頃と同じ竹垣に戻しました。

また、見晴らしの良い場所に「沼見のベンチ」を設置しました！ここから手賀沼方面を見下ろして、往時の様子を偲(しの)んでもらえたら・・・と思います。

木も一部伐りましたが、先日の強風で杉の木が１本折れてしまいました。杉の木は、幹の根本辺りからボキッと折れてしまうので危険なため、今生えているものも根本から伐る予定です。ハゼも落葉が激しいため１本伐りました。

それから、南門を入ったところに瓦で池を埋めていたことがわかりました。おそらく池の水がたびたび増水して溢(あふ)れていたことから、村川堅太郎先生の時代に埋めていたようです。

今回大きさは推測ですが池を復元しました。早速睡蓮を譲り受け、浮かべています。これからさらにメダカを放すなどして、ハケの道らしい自然豊かな水辺を再現する予定です。

そして、もうすぐ端午の節句ということで、鷲見さんが早速手作りの鯉のぼりや金太郎を母屋へ飾ってくださいました。公開初日に五月人形も飾り、お部屋の雰囲気がグッと初夏らしくなりました！

以上、村川初心者の編集Ｔがお伝えしました。

次回の月例会は・・・

次回月例会より、通常どおり毎月 １ 日開催となります。

ご連絡が遅くなりましたが、次回は平成24年５月１日、午前９時30分からです。テーマは、この３月に市指定文化財になった葺不合神社です。新緑のさわやかな村川で、皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

旧村川別荘だより 62

平成24年5月15日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会　文化・スポーツ課
歴史文化財担当：辻、工藤、種
〒270-1166
我孫子市我孫子1684番地
TEL:04-7185-1583（直通）
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.

月例会が開催されました。

しばらく変則的な日程で月例会を開催しましたが、５月の月例会は久しぶりに通常通り１日の開催としました。

ゴールデンウィーク期間の中、たくさんの方々にご出席いただきました。

今月も、みなさまよろしくお願いいたします。

市指定文化財の葺不合神社

市内新木地区にある葺不合神社（ふきあえずじんじゃ）が昨年度末に市の文化財に指定されました。

●神社のいわれ●

葺不合神社は、もとは弁財天で知られる市杵島比売命（いちきしまひめのみこと）が祀られた弁天堂と、神武天皇の父にあたると言われる鸕が草葺不合命（うがやふきあえずのみこと、[が]は茲へんに鳥）が祀られた葺不合神社の２つの神社でした。

現在の神社は弁天堂があった場所にあります。この地は湧き水を集めた弁天池があり、江戸時代には「沖田の弁天様」として、「布施の弁天様」と並ぶほど信仰され、賑わっていたそうです。

明治に入ると明治元年（1868）の神仏分離政策にともない厳島（いつくしま）神社と改名し、明治三九（1906）年以降進められた神社合祀政策によって、近隣にあった葺不合神社と二の鳥居が現在の場所に移築されました。

そして、元の葺不合神社を本殿、厳島神社を拝殿とした「葺不合神社」と改称、合祀し、今に至っています。

神社の祭神である「ウガヤフキアエズノミコト」という変わった名前の由来ですが、母親である豊玉毘売命(トヨタマヒメノミコト)が、浜辺を歩いていると突然産気づき、そこであわてて産屋を建て、鵜の羽で屋根を葺（ふ）こうとしたところ、まだ全てを葺き終わらないうちに御子を産んでしまった…それで「うがやふきあえずのみこと」、つまり、鵜の羽を葺き終わらないうちに生まれた御子、となったそうです。

●社殿について●

市文化財として指定された拝殿と本殿について紹介します。

拝殿は、明治時代に背面に格子扉を設けて神社の拝殿としていますが、長押(なげし)より上に施された獏(ばく)や唐獅子(からじし)などの装飾彫刻は江戸時代中期の仏堂の特徴を示しており、元は弁天堂であったことがうかがえます。

内陣正面には天女の彩色画が描かれています。盤面の剥落が著しかったものの、残っていた塗料をもとに復元され、とても華やかです。

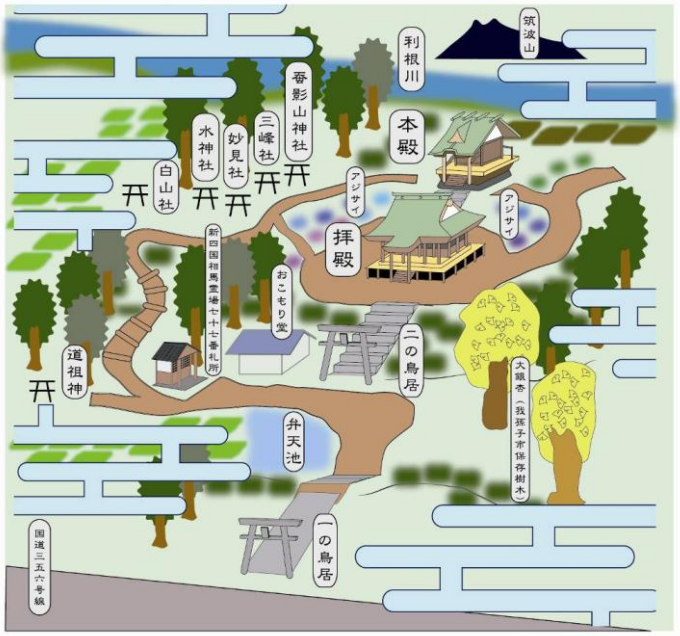
棟札や建築様式から江戸時代中期に建設されたことが知られ、屋根等に改修の跡がみられるものの当時の雰囲気を今に伝える貴重な建築物です。

本殿は明治三十（1897）年に建築されたもので、一間社流造(いっけんしゃながれづくり)の小振りな社殿ながら全体に豊かな装飾彫刻が施されます。

胴羽目(どうばめ)彫刻は八岐大蛇(やま

たのおろち)、天岩戸(あまのいわと)など神話を題材としますが、脇障子(わきしょうじ)には明治時代の軍人の姿もあり、時代背景をうかがえます。

この彫刻は江戸以来の彫物大工の系譜を受け継ぐ二代目後藤藤太郎(ごとうとうたろう)（竜ヶ崎住、文久元年～昭和六年）の手によるものです。藤太郎は利根川流域で彫物大工として活躍し、我孫子市内では長福寺大師堂（下新木)、正泉寺本堂（湖北台)、延命寺虚空蔵堂（布佐）で彫刻を手がけています。精緻な装飾彫刻は江戸末期の神社建築様式の大きな特徴で、それが明治半ばまで伝えられていることを示す貴重な例です。



葺不合神社鳥瞰図

実は編集 T、４ 月配属のため葺不合神社にでかけたことがありません・・・。近々行ってみようと考えています。

辻主査長によると、「やぶ蚊が湧く前の初夏に出かけるのがおすすめ！」とのこと。暑くなる前にみなさまも足を運んでみてはいかがでしょうか？

連絡・意見交換など

●「我孫子の景観を育てる会」会長の吉澤さんから「楚人冠のメッセージー愛する手賀沼と共にー」発行のご報告がありました。会の設立十周年記念事業として、杉村楚人冠と手賀沼に焦点を当てた研究を進めて来られたということです。

楚人冠の生い立ちや人となりをはじめ、愛する我孫子・手賀沼のために尽力してきたこと、100 年前、そして今の小学生たちが手賀沼を大切に残していこうという思いが紹介されていて、我孫子にとって手賀沼は、なくてはならない大切なものだと改めて感じる、素晴らしい１冊となっています。

●吉澤さんから、６月２日開演のあびこ声楽家協会のコンサート「魂の歌唱―柳兼子」のお知らせがありました。

二期会オペラ歌手の大久保光哉さんご出演、ご来場者にはもれなく白樺派のカレー（レトルト）をプレゼントするということです。

●我孫子市の中学生用副読本として発行された「ふるさと我孫子の先人たち」の紹介をいたしました。

日頃のガイド業務にお役に立てば幸いです。

4月の来荘者数

平成２４年４月は２２７人でした！

１７日から公開を再開し、実質１３日間の公開でしたが、新しく生まれ変わった旧村川別荘を、たくさんのお客様が訪れました。

ちなみに

平成 23年４月：１６４人

平成 22 年４月：６３５人

平成 21 年４月：５８４人　でした。

次回の月例会は・・・

次回は平成 24 年６月１日（金)、午前９時 30 分からです。

テーマは、「富士山と別荘地」を予定しています。

旧村川別荘だより

63

平成24年6月19日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会　文化・スポーツ課
歴史文化財担当：辻、工藤、種
〒270-1166
我孫子市我孫子1684番地
TEL:04-7185-1583（直通）
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.

月例会が開催されました。

６月１日に月例会が開催されました。

６月及び７月のシフト確認・調整が行われました。みなさま、いつもご協力ありがとうございます。

緑深い村川、夏が近づきいろんな虫たちが顔を出しています。虫よけを準備しましたので、お当番の時にお役立て下さい。

別荘地と富士山

手賀沼の美しさに魅せられ、文化人たちに別荘地として人気を博した我孫子。

堅固先生は別荘を設ける際に富士山が見えることにもこだわったそうで、今回は別荘地に欠かせない景観の一つと考えられた富士山についての解説でした。

●聖なる霊峰から身近な霊峰へ●

富士山は独立峰で火山であることから、古来より聖なるものとして捉えられていたようです。

『常陸国風土記（ひたちのくにふどき）』をはじめ、『竹取物語』、『日本霊異記（にほんりょういき）』にも富士山と思われる山の記述が残され、富士山自体を浅間大神として神格化し祭られてきました。

平安時代に末代上人（まつだいしょうにん）が登山道を開き、修行目的での登山が始まり浅間信仰も確立され、さらに江戸時代に入ると東海道の整備とともに人々の目に止まるようになり、富士講が流行しました。

そして、富士山を模した「富士塚」が、江戸を中心に造られました。

我孫子市中峠の天照神社にも、溶岩を積み上げた小さな富士塚があります。

江戸末期には登山客も増加し、高山たつにより女人禁制が破られ、英公使オールコックが外国人初登頂など、「限られた人が登る、信仰対象としての富士山」から、娯楽やスポーツのひとつとして登山をする「より身近な霊峰」となっていきます。

●眺望スポットとしての富士山●

明治時代になると建物の高さ制限が解かれ、文明開化に伴い洋風高楼建築が次々と建てられ、人々の「都市の眺望を楽しみたい」という願望を掻（か）き立てます。

その思いが、愛宕山の「愛宕塔」、浅草寺の「富士山縦覧場（じゅうらんじょう）」、「凌雲閣（りょううんかく）」など、眺望を楽しむための塔の誕生につながります。

●景観の要としての富士山●

明治期に入るとお雇い外国人をはじめ華族、文化人たちが、風光明媚かつ東京から交通の便が良い場所に別荘を構えるようになります。

「庭の遠方に広がる海、更に奥にそびえる富士山」…別荘地のセールストークの影響で、人々に「別荘地には富士山がつきもの」というイメージが植えつけられます。

我孫子には海はなくとも美しい手賀沼があり、その奥に富士山が望めます。そして、

上野から汽車で１時間ほどで行ける利便性もあり、別荘地として愛されたようです。

ちょうどその頃、英語の「tourism（ツーリズム）」の訳語として『易経（いきょう）』の「国の光（＝文化）を観る」を語源とした「観光」という言葉も生まれ、観光ブームが起こります。

観光ブームの一翼を担った「大正の広重」こと吉田初三郎の描く鳥瞰図（ちょうかん）も富士山人気を加速させます。

帝大教授の堅固先生も、時流に乗って富士山が見えることにこだわったようで、現在も、空気の澄んだ日には村川付近から富士山が望めます。

その美しい眺めは国土交通省より「関東富士見百景」として選定されています。

連絡・意見交換など

●「楚人冠のメッセージ―愛する手賀沼と共に―」（吉澤さん）

先日発行された「楚人冠のメッセージ―愛する手賀沼と共に―」を希望者へ頒布いただきました。

我孫子の景観を育てる会の活動の展開に、旧村川別荘の公開、活用が深く関係していること、村川の市民ガイド活動がきっかけで、杉村楚人冠の存在や、「手賀沼保勝会」立ち上げの話に行きつき、この本を作るきっかけになったことなどをお話しいただきました。

●杉村楚人冠記念館夏期企画展のお知らせ

杉村楚人冠記念館では７月１８日から夏期企画展として「白瀬中尉の南極探検と楚人冠」が始まります。

●白樺文学館特別企画のお知らせ

白樺文学館では特別企画として、現在「富本憲吉手紙展」が開催中です。

６月２０日（水）にはけやきプラザにて記念講演会「富本憲吉とバーナード・リーチ」があります。

みなさまどうぞ足をお運びください！

●千葉県観光ボランティアガイド協議会の地域交流会（瀬戸さん）

去る５月１５日に行われた千葉県観光ボランティアガイド協議会の地域交流会、総会について報告がありました。

地域交流会の様子と、昨年度の活動報告および今年度の取り組み、昨年度からの会費制導入の可能性について説明のあったことの報告がありました。

●市民活動フェア（矢野さん、瀬戸さん）

一昨年から参加している市民活動フェアに伴う会議が開かれ、それについての報告がありました。

運営方法が変更になった点と、12 月 1 日、2 日に開催予定である点が報告され、月例会で話し合った結果、今年度も参加することが決定となりました。企画内容、企画実行の主要メンバー選出については、次月以降話し合う予定です。

5月の来荘者数

平成２４年５月は４８４人でした！

ちなみに

平成 23 年５月：592 人
平成 22 年５月：366 人
平成 21 年５月：470 人　です。

次回の月例会は・・・

次回は平成 24 年７月１日（日）、午前９時 30 分からです。

テーマは、「考現学に見る昭和初期」を予定しています。

旧村川別荘だより 64

平成 24 年7月１7日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会　文化・スポーツ課
歴史文化財担当：辻、工藤、種
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583（直通）
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.

月例会が開催されました。

今月は、市民活動フェアなど、意見が飛び交う活気ある月例会となりました。

暑くなってまいりましたが、今月もどうぞよろしくお願いします。

考現学に見る昭和初期

●今和次郎（こん わじろう）について

今は、明治２１（１８８８）年、青森県弘前市生まれの民俗学者、建築学者です。

東京美術学校図案科（現在の東京芸術大学美術学部）卒業後、早稲田大学建築学科勤務中にその画力を買われ、民俗学者である柳田国男主催の民家研究の会「白芽会（はくぼうかい）」の活動に参加し、埼玉県や東北地方の民家調査を担当しました。

大正１２（1923）年、関東大震災で被災するものの、全壊した借家からの引っ越しがひと段落すると都内の各避難所を巡り、震災バラックの写真を撮りスケッチをしています。

また、「バラック装飾社」を立ち上げ、震災後仮店舗として建てたバラックを美しく飾る活動も行いました。

さらに戦後になると、日常生活を考察する「生活学」や「服装研究」といった新しい学問領域も開拓し、幅広い分野に影響を与えました。

●考現学とは？

民家調査とバラック調査・装飾がきっかけとなり、東京の町が復興し発展していく様子を記録する絶好の機会であると考えた今は、街行く人々の服装や持ち物、行動などを詳細に観察・記録することで現在生きている人間の暮らしを調査研究する「考現学（こうげんがく）」＝Modernologio（モデルノロヂオ）という「モノから現代を考える学問」を提唱します。

日常にあるものから、現代を考えるという独特の思想は、日本はもちろん、西洋でも考え付いた人は誰もおらず、非常に先進的なものであったことがわかります。

調査の目的、方法、日時を明らかにして現地で詳細にスケッチし、分類、統計という調査スタイルは、社会学、経済学、人類学、民俗学に大きな影響を与え、マーケティング理論、社会調査の原点とも言えます。

●多岐にわたるユニークな調査

今の調査を物質の属性で分類すると、おもに①人の行動に関するもの、②住居関係のもの、③衣服関係のもの、の３つに分けられます。

←（図）衣服関係の調査。中学生の洋服の破れ箇所を調べています。

①の人の行動に関するものでは、「井の頭公園春のピクニック」と題し、公園にいる人の配置・性別・年齢・しぐさ・食べているものを調査。ちなみに食べていたものは、ゆで卵、南京豆、あんぱん、ミカン、ドーナツなどだったとか。

②の住居関係のものでは、「下宿住み学生持ち

物調べ」を実施し、１人の大学生について下宿での家具や所有物はもちろん、ポケットの中身まで（！）全て記録しています。

③の衣服関係のものでは、「東京銀座街風俗記録」として銀座界隈を歩く人々の性別、年齢から和装・洋装の別、背広、コート、靴の色、メガネや帽子の種類、髪型、化粧、内股・がに股歩きの別まで克明に記録しています。

どの調査も統計を見ると本当に細かく、驚くとともに当時の様子がリアルにイメージでき、ワクワクしてきます。

市民活動フェアについて

１２月１日（土）、２日（日）に開催予定の市民活動フェアに、今年も参加が決定いたしました。

とりまとめ役を引き受けてくださっている矢野さんをはじめ、日比野さん、板倉さん、遠藤さん、瀬戸さんがプロジェクトメンバーに名乗りを上げてくださいました！

具体的な企画はこれから練ることになります。旧村川別荘を、もっと身近に感じていただく楽しい企画を考えていきたいですね（*^_^*）

夏の旧村川別荘

季節も初夏から梅雨・夏へと移り変わり、村川の雰囲気も夏らしくなりました。

母屋の飾りは、鷲見さんお手製の七夕のつるし飾りに変わりました。

編集ＴとＫが心待ちにしていた、池の睡蓮も美しい花を咲かせています。

季節の変化を身近に感じる旧村川別荘…。

堅固先生・堅太郎先生も同じ場所で季節の移り変わりを感じていたのかと思うと感慨深いですね。

そのほかお知らせ

●竹灯篭の夕べについて

今年度の竹灯篭の夕べは９月８日（土）、９（日）に開催予定です。

ガイドの皆さま、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

●常磐沿線おすすめマップについて

吉澤さんより、松戸駅職員が独自で作成している「常磐沿線おすすめマップ」について紹介がありました。

三河島～取手間の各駅１か所ずつ神社社寺などを紹介しており、なんと我孫子駅エリアでは旧村川別荘が取り上げられています！

意外なところで旧村川別荘の魅力に気づいてくださっていて、嬉しい限りですね！

６月の来荘者数

平成２４年６月の来荘者数は３３７人でした！

ちなみに

平成２３年６月　６９４人

平成２２年６月　４９５人

平成２１年６月　２９３人　　でした。

次回の月例会は・・・

次回月例会は８月１日（水）９時からです！

いつもより 30 分早く開始しますので、ご注意ください！

月例会で皆様にお会いできるのを楽しみにしています（^_^）♪

旧村川別荘だより

65

平成24年8月9日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会　文化・スポーツ課
歴史文化財担当：辻、工藤、種
〒270-1166
我孫子市我孫子1684番地
TEL:04-7185-1583（直通）
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.

月例会が開催されました。

８月の月例会が開催されました。

夏らしい暑い日でしたが、別荘内は風通しがよくて意外と涼しく、風通しや窓の配置で夏の暑さがずいぶんと変わることを体感した編集Ｔです。

厳しい暑さが続きますが、今月もよろしくお願いします。

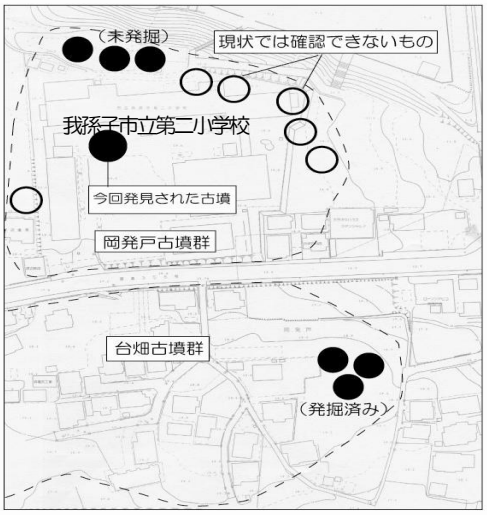
最近の市内発掘調査

今年度に入り、校舎新築や放射性物質の除染作業に伴う発掘調査が続いています。

第二小学校と、湖北小学校の発掘調査の結果をお知らしました。

●岡発戸古墳群（第二小学校）発掘までの経緯

第二小学校の場所には、岡発戸古墳群と呼ばれる９基の円墳があり、今も３基が残されています。



図：我孫子市立第二小学校付近の古墳群

現校舎の南側に校舎を建替えることとなり建築の前に試掘を行ったところ、埴輪が出土し、古墳周辺の溝（周溝）を確認したため、引き続き本調査を行いました。

●調査で判明したこと

試掘調査を行った現校舎の南側は、大正～昭和初期に校舎があったとされていました。

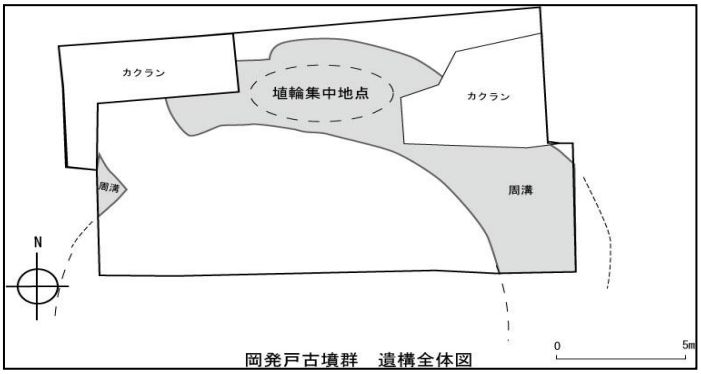
そのため、墳丘はすでに失われていましたが直径約２０m、幅約４m、深さ１mの周溝が確認できました。

周溝は円状に切れ目なく巡っているのではなく、カクラン（遺構や包含層（いこう　ほうがんそう）が、新しい時代の耕作などによってかき回されてしまっている状態）とは別に、一部途切れがありました。

周溝からは大量の円筒埴輪（はにわ）、人物埴輪から馬の鼻部分、鞍と思われる埴輪の破片まで出土しました。

埴輪は小型で作りも粗（あら）いことから、６世紀後半のものと推測できます。

我孫子の他の古墳と比較すると遅めの年代に作られたもののようです。



岡発戸古墳群　遺構全体図

●調査成果の意義

▲出土した人物埴輪

今回調査した岡発戸古墳群の南側には７世紀末の終末古墳である「台畑古墳群」が広がっています。

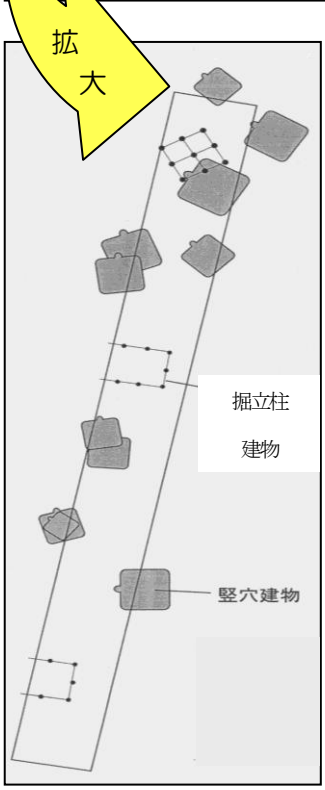
今回発見された古墳は、現校舎の北側にある岡発戸古墳群と台畑古墳群をつなぐ位置にあり、この周辺では６世紀から７世紀にかけて、次々と古墳が作られていたことがわかります。

台地であるこの付近は北側に利根川と筑波山、南側には手賀沼が広がり、見晴らしのよい場所。

古墳に眠りながら集落を見守っていたのはどんな有力者だったのでしょうか…？

●湖北小学校（西原遺跡）の発掘までの経緯

湖北小学校から湖北地区公民館付近は西原遺跡と呼ばれる遺跡で、７世紀～１０世紀の竪穴建物や溝などが多数見つかっています。今回放射性物質除染工事に伴い、８m×８０mの範囲を発掘調査しました。



●調査で判明したこと

８世紀～９世紀（奈良・平安時代）の竪穴建物が１１棟、掘立柱建物が３棟発見できました。

竪穴建物からは土師器、須恵器が多数出土し、土師器は、土浦付近の粘土を焼成してことも分析の結果わかりました。

出土した土器には「中」と、器の内外両側に墨書きされたものがあり、文字を書く道具（墨や筆、硯など）があり、文字を書ける人間がこの付近に存在したこともわかります。（「中」が何を意味していたのかは不明。持ち主の名前なのか、用途なのか、土器の所属先なのか…？）

また、鉄滓と呼ばれるたたら製鉄の際に生じる鉄屑が多く出土された竪穴建物もあり、製鉄技術を持っていた集団が住んでいた可能性もあります。

●調査結果の意義

旧湖北高校周辺は奈良時代の役所である「下総国相馬郡衙(ぐんが)」があったことが調査の結果わかっていますが、湖北小学校は未発掘部分がほとんどでした。

今回の発掘前は郡衙の主要施設（たとえば、郡の役人である「郡司」が仕事をした「郡庁」）が出てくるのでは？と期待されましたが、今回確認できたのは役人のもとで下働きした人々のすまいの跡のようです。

夏の旧村川別荘　その２

村川の母屋の飾りが、盛夏バージョンに変わりました。

編集Ｔが思わず歓声を上げてしまったのは、金魚と風鈴のモビール！

夏の日差しと風を受けてくるくる回る姿がとても可愛らしいです。

写真がいまいちなので、ぜひ実物を見て暑さを忘れていただきたいです。

朝顔や金魚鉢も、夏らしい、楽しい演出ですね☆

７月の来荘者数

平成２４年７月の来荘者数は２１２人でした！

ちなみに

平成２３年７月　２２９人

平成２２年７月　１１３人

平成２１年７月　２２１人　　でした。

次回の月例会は・・・

次回月例会は９月１日（土）９時３０分からです！

連日の猛暑、どうぞ熱中症にはくれぐれもお気を付けください！

９月は８日（土）、９日（日）に毎年恒例「竹灯篭の夕べ」も開催されます。

皆さまの元気なお顔を見られることを楽しみにしています（＾＾）

旧村川別荘だより

平成24年9月19日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会　文化・スポーツ課
歴史文化財担当：辻、工藤、種
〒270-1166
我孫子市我孫子1684番地
TEL:04-7185-1583（直通）
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.

月例会が開催されました。

まだまだ日中は残暑が続いていますが、秋はすぐそこ！来荘者が増えるシーズンが楽しみですね ☺

今月もどうぞよろしくお願いします。

白瀬中尉の南極探検と楚人冠

９月の月例会では、市史調査・研究を担当している田中が、「白瀬中尉の南極探検と楚人冠」について解説をいたしました。

●南極探検以前の白瀬矗（のぶ）

白瀬矗は、１８６１（文久元）年、秋田県由利郡金浦（このうら）（現にかほ市金浦）の寺に生まれ、１１歳の時、寺子屋で北極の話を聞いて以来探検家を志します。

探検家になるため僧籍を離れ陸軍に入隊、１８９３（明治２６）年に郡司成忠大尉率いる報効義会（ほうこうぎかい）の探検隊の一員として、千島で過酷な二度の越冬を経験します。

白瀬は千島経営の請願を議会に出し、その資金で千島を経由して北極を目指そうと試みます。

しかし、政府から資金を交付してもらえないまま日露戦争が勃発、さらには、白瀬の最大の支援者であった児玉将軍が急逝し、計画は行き詰まります。

そんな中、アメリカの探検家ピアリが北極点に到達した、という一報が…。

長年北極点到達を目指してきた白瀬も一時はこの報せに打ちのめされましたが、誰も到達していないもう一つの場所、南極点に向け再び動き始めます。

●朝日新聞社、白瀬隊を後援

ちょうどその頃、楚人冠は外電及び外国人対応として東京朝日新聞社に勤務していました。

（ピアリの北極点到達のニュースも、楚人冠が書いています。）

外電では、極地探検に関するさまざまなニュースが配信され、楚人冠は外電の翻訳をきっかけに極地探検へ興味を持ったのではないかと考えられます。

さらに楚人冠は極地探検について調べるうち、欧米の新聞経営者が探検隊を支援していることを知り、「日本人の南極探検を、朝日新聞社が後援すれば、面白い文化的事業になる」と考え、社に南極探検を後援することを提案し、後援会の幹事も引き受けます。

楚人冠はまず「南極探検隊義金募集」と題する社告を出し、関西で「南極探検大講演会」を開催。

講演会では、「幻燈（今で言うスライドショー？）」で、イギリスの探検家スコット、シャクルトンの南極探検の写真を上映しました。

続いて南極探検劇を催し、同時に新聞でもペンギンや南極探検の記事を連載して読者の南極への関心をかきたてました。

また、楚人冠は探検の歴史を紐解き、最初は領土拡張が目的の「政治的探検」、次に産物や交通路を求める「商工業的探検」、そしてこれからは未知の事柄について研究の成果を持ち帰ることが目的の「科学的探検」の３種類あり、極点到達の遅速を競うことだけが全てでなく、未踏の地を踏査することに意義があると主張しており、探検に対して先進的な考えを持っていたことが、記事の文面から伝わってきます。

●紆余曲折を経ての出発

資金のほか、船の調達などいくつもの障壁を乗り越え、白瀬隊は１９１０（明治４３）年１１月２９日、東京・芝浦港から南極へ向け出発しました。

白瀬隊の計画では、冬が始まる３月頃に南極に上陸しキャンプで越冬（南半球のため、南極では３月から１０月が冬）、夏になったら南極点を目指して移動する予定でしたが、上陸を目前にしながら強風と氷に阻まれ、シドニーへ引き返します。

船長野村直吉と記録係の多田恵一は後援会に現状を報告し支援を呼びかけるためにシドニーから一時帰国、楚人冠は二人を出迎えて取材し、「南極圏内消息」という記事を掲載して宣伝しました。

そして白瀬率いるシドニー残留組は、南極での冬

営家屋用の小屋を建てて生活していましたが、あまりの粗末さに一時スパイ疑惑がかかるなどのトラブルが発生、その一方でシドニー大学のデビッド教授など、白瀬隊を擁護、応援してくれる人も現れ、白瀬たちを支えてくれました。

● 再出発と探検の成果

白瀬隊は１９１１（明治４４）年１１月１９日にシドニーを出発しもう一度南極探検に挑戦、翌１９１２（明治４５）年1月１６日、ついに日本人として初めて南極上陸を果たしました！

しかしながら、同時期に南極点を目指していたイギリス人のスコットとノルウェー人のアムンセンは予定通り前の年に上陸してキャンプを張っていたため、大きく遅れを取っています。（すでにアムンセンは１９１１（明治４４）年１２月１４日に南極点に到達。）

そこで白瀬隊は南極での観測・調査など学術的研究と、これとは別に前人未踏であった西経 156 度 37 分、南緯８０度５分に到達「大和雪原（やまとゆきはら）」と名づけました。また、開南丸でロス海付近の湾を調査し「開南湾」「大隈湾」と命名して帰還しました。

南極点に到達することはできませんでしたが、楚人冠が主張する「科学的探検の時代」という観点からすれば、１人の死者も出すことなく南極の地質、氷山、地形などについて新しい知見を持ち帰った白瀬隊の探検は後世に大きな功績を残しました。

竹灯篭の夕べが開催されました！

村川の風物詩、「竹灯篭の夕べ」が今年も9月8日（土）、9日（日）に開催されました！

開催前の１週間はゲリラ雷雨が多発していまいたが当日はお天気に恵まれ、２日間で５７１名の方にお越しいただきました(^_^)v

８日はわれらが大井さんをはじめとする雅楽寿会さんの琴と尺八の演奏♪

９日はコカリナの鈴木鈴子さん、ギターの橋本実さんによる演奏♪

編集Ｔのつたない文章力ではお伝えできないくらい、幻想的で美しい世界は、思わず仕事ということを忘れるほどで、力不足ながらも運営に携わることができ幸せを感じました。

お忙しい中、お手伝いを快く引き受けてくださった、荒井さん、石川さん、遠藤さん、大井さん、川端さん、菊池さん、佐久間さん、鷲見さん、瀬戸さん、染野さん、日比野さん、矢野さん（五十音順）、感謝の念でいっぱいです。本当にありがとうございました！

また、村川夏子さん、春子さんご夫妻をはじめ、ガイドＯＢ、現役ガイドのみなさまも足を運んで下さいました。ありがとうございます！

8月の来荘者数

平成２４年８月の来荘者数は２１２人でした！

ちなみに　平成２３年８月　１９０人
　　平成２２年８月　１９６人
　　平成２１年８月　１４４人　でした。

次回の月例会は・・・

次回は１０月１日（月）9時３０分からです！

皆さまの元気なお顔を見られることを楽しみにしています（^ ^）

旧村川別荘だより

67
平成24年10月18日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会　文化・スポーツ課
歴史文化財担当：辻、工藤、種
〒270-1166
我孫子市我孫子1684番地
TEL:04-7185-1583（直通）
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.

月例会が開催されました。

台風一過の秋晴れの朝、１０月の月例会が開催されました。

母屋の飾りも秋らしく替わり、訪れた方の目を楽しませてくれています。

今月もどうぞよろしくお願いします。

母屋の秋の飾り。柿の実にはトンボが止まり、まるで本物のよう！

女中さんの歴史

今月の月例会のお話は、村川家はじめ、杉村家や井上家でも使われていた「女中さん」についてでした。

●女中さんとは？

女中さんは住込みで雇われ、家事労働を担う女性を指し、古墳時代頃からすでに存在し、戦前まで女中は女工と並んで女性の一大職業でした。

女中さんには大きく分けて、「上」女中と「下」女中（下女）がいました。

上女中（仲働き）は、雇用者夫妻の身の回りの世話や外出のお伴、客人の接待、電話の取次ぎ、子弟の養育、上座敷の掃除などを担当し、来客への接遇を通じて挨拶や物言いの習得や、お裁縫や生け花、お茶など、女性としてのたしなみを身につけました。

比較的上の身分の家の娘が良家へ嫁ぐために家事・行儀見習いをするのが目的でした。

下女中は水仕事を中心とした炊事・洗濯・掃除の担当で、税金や借金の代わりとして、また、家族への仕送りや口減らしのために農村から出稼ぎで来る娘が主で、同じ「女中」でも身分の差は大きいものでした。

女中さんは都市近郊の娘が多かったのですが、次いで新潟が多く（水稲単作で小作人が多く、出稼ぎが必要だった）、「女中王国」として多くの女中さんを輩出し、「純朴で忍耐強くてよく働く」と評判でした。

●大変だった当時の家事労働

明治に入ると女中さんの需要は急増します。

理由としては①西洋文化が入ってきて、従来の「和」の生活に「洋」が加わり、家事が複雑かつ高度になった、②資本主義の発展で中流階級が生まれ、女中を雇う財力を持つ人々が増えたことが挙げられます。

現代の感覚では、「家族以外の人に日常的に家事労働をやってもらうなんて、贅沢（ぜいたく）！」と感じてしまいますが、当時、特に明治～大正期は歴史上、最も家事が複雑で負担の大きい労働でした。

例として洗濯を挙げますと、洗濯頻度は毎日で現代と同じですが、しゃがんで手洗い、脱水も人力…と、現代のような家電製品はなく、かかる時間と労力は相当のもので、女中さんがいなくては、家事がこなせなかったのも納得できます。

●女中部屋について

戦前は、中流階級以上の家には「女中部屋」があり、接客部分や家族の生活空間と、使用人の居場所を中庭や廊下で明確に区別していました。

女中部屋のほとんどは北側の玄関の側や、台所の隣など、来客や家事に便利な場所に位置し、広さは３畳ほどで、窓はないか、あっても小さい窓で暗く、また、押入れもない場合が多かったようです。

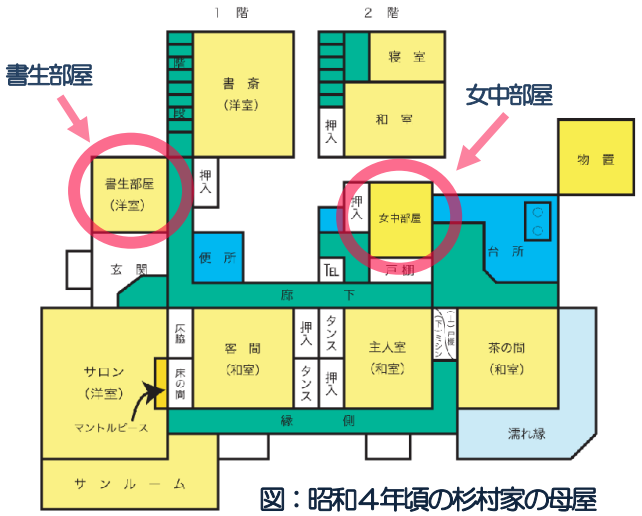
書生がいる場合は、玄関脇に書生の部屋が設けられ、女中部屋は台所の脇に設けられていました。

部屋は障子か襖（ふすま）で隔てられただけで、鍵もなく、個室としてのプライバシーは確保されていませんでした。

さらに、商家の場合は店舗部分にスペースを取ら

れるため、女中部屋もなく、台所や茶の間に雑魚寝（ざこね）することが一般的でした。

女中部屋および書生部屋の名残を感じられる身近な場所に、杉村楚人冠記念館があります。玄関脇の、現在受付となっている部屋が元書生部屋で、展示室となっている南側の家族の居室と廊下で隔てられた場所に元女中部屋があり（現在はバリアフリーのお手洗い）、部屋の広さや位置から、雰囲気を感じられると思います。ご来館の際には、女中部屋・書生部屋のことをちょっと思い出してみてください。



図：昭和４年頃の杉村家の母屋

杉村楚人冠記念館解説書『楚人冠の生涯と白馬城』より

●女中の消滅

長らく女性の一大職業であった女中さんは、戦中・戦後と時代を経るごとに減少していきました。

理由は複数あり、①華族制度の廃止、財閥解体など上流階級の崩壊、②核家族化、③「ウサギ小屋」のような公庫住宅や団地が中流家庭の住居の主流となり、女中部屋の確保が困難になった、④高度経済成長により、地方でも働く場所が増え、時間の拘束される女中さんの仕事を避けるようになった、⑤離農して出稼ぎの必要がなくなった、⑥家電の普及による家事負担の軽減などです。

女中さんはいなくなってしまいましたが、家庭には高機能な家電がひととおり揃い、クリーニング店やお惣菜屋さんなど部分的な家事のアウトソーシングや、ヘルパーさん、保育ママのような家庭内の人手不足を肩代わりしてくれる新たな職業など、今でも家事労働を助けてくれる女中さんのような存在はあちこちにありますね。

我孫子市民フェスタの企画が決まりました！

１２月１日（土）、２日（日）に開催予定の我孫子市民フェスタの企画が具体化してきました！

村川ガイドではアビスタにて①村川親子について語るミニセミナー、②村川の四季、植物をテーマにした写真の展示、③アビスタ～別荘内のガイド（あびこガイドクラブとのコラボレーション！）、を行うことにしました。

旧村川別荘邸内に自生する豊かな植物たちの説明や、ガイドの途中、ささやかなおもてなしもできたら…と画策しています！

東京文化財ウィーク２０１２

東京都教育委員会主催の「東京文化財ウィーク２０１２」を紹介しました。

目白の村川家住宅も 11 月３日に、先着順、事前予約制で公開されるそうです！

詳細は、都内各所に設置のパンフレットまたは http://www.syougai.metro.tokyo.jp/sesaku/week.html を参照ください☆

９月の来荘者数

平成２４年９月の来荘者数は**７７４**人でした！

（竹灯篭の夕べ：５７１人、そのほか２０３人）

ちなみに 平成２３年９月　１０２３人

平成２２年９月　９１３人

平成２１年９月　１６７２人　でした。

随分少なく見えますが、竹灯篭の夕べを除くと、

平成２３年９月　２２１人

平成２２年９月　２０８人

平成２１年９月　２８８人　となり、竹灯篭の入場者数が大きく影響したことが分かりました。

来年は、竹灯篭の夕べの企画やＰＲ方法をもっと工夫してよりお客様に興味を持っていただけるよう、再来のお客様を増やせるよう頑張ります！

何かよいアイディアございましたら、文化・スポーツ課までご提案ください！

★お詫びと訂正★

旧村川別荘だより 66 号で平成 24 年８月の来荘者数を２１２名とお知らせしましたが、正しくは９６名でした。

お詫びしますとともに、上記の通り訂正いたします。

次回の月例会は・・・

次回月例会は１１月１日（木）９時３０分からです！

どうぞよろしくおねがいします♪

旧村川別荘だより

68
平成24年11月13日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会　文化・スポーツ課
歴史文化財担当：辻、工藤、種
〒270-1166
我孫子市我孫子1684番地
TEL:04-7185-1583（直通）
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.

月例会が開催されました。

11月の月例会が行われました。今回は、だいぶ変更がありましたが、みなさまのあたたかなご協力により、すべての変更が解決されました。いつも本当にありがとうございます。

だんだんと肌寒い季節となってまいりましたが、どうぞこのひと月もよろしくお願いいたします。

白樺文学館「志賀直哉と我孫子」

白樺派の仲間たち（後列右から4番目が志賀）

現在、白樺文学館では企画展示「志賀直哉と我孫子」を開催中です。この展示は、「十一月三日午後の事」という志賀作品をもとに、そこに描かれた我孫子の風景、当時の村人たちの様子、道筋などに関する表現を精査し、現代の地図に落とし込んでいくという作業を通して、志賀の暮らした“我孫子”を浮き彫りにしようというものです。

もうご覧になってくださった方もいらっしゃるかとは思いますが、月例会ではこのＰＲをいたしました。概要をお伝えします。

志賀は、明治１６年に宮城県石巻市に生まれました。父直温は、当時、勤務していた第一銀行の石巻支店に赴任しており、その赴任先での誕生ということです。２歳のときには東京に戻り、育ちは東京（府）。

大正３年１２月に勘解由小路康子（かでのこうじ　さだこ）と結婚し、大正４年９月には我孫子に新婚ほやほやでやってきます。そして、翌年６月には長女慧子（さとこ）誕生（翌月に亡くなってしまいますが・・・）、大正６年には次女留女子（るめこ）誕生、大正８年には長男直康誕生（やはり翌月に亡くなります・・・）、大正９年に三女壽々子（すすこ）誕生、大正１１年四女萬龜子（まきこ）誕生。志賀直哉の８人の子どものうち、実に５人が我孫子で生まれています。

作品面で見ると、我孫子に来る前に夏目漱石からの執筆依頼なども断り、３年の擱筆（かくひつ）の期間があったのちに、この地で代表作と言われるようになる数々の名作を書き上げます。大正６年の「城の崎にて」「佐々木の場合」を皮切りに「大津順吉」「好人物の夫婦」「赤西蠣太」を立て続けに発表、そして父との不和の解消を描いた「和解」も。

我孫子には足掛け８年間いたわけですが、引っ越し魔とも言えるほど生涯に３０回弱も引っ越しした志賀直哉としては、我孫子はかなり長い期間居住した場所と言えます。

我孫子は、子どもたちの“誕生”の地であり、小説家志賀としての“再生”の地でもあります。何かを生み出す力が宿る、そんな手賀沼の畔（ほとり）ではないでしょうか。

志賀夫妻と留女子（ハケの道にて）

連絡・意見交換など

●12 月の月例会について

・我孫子市民フェスタと重なるため、11 月 29 日（木）9:30 から行うこととする旨を伝えました。

●新館の屋根工事について

・11 月 21 日あたりから工事が入るので、ガイドのみなさんにおいては母屋に移動してガイドを展開していただくようお願いします（＾＾）

・これに合わせて文化・スポーツ課では、着工前に新館から貴重品等展示品やパネルなどを持ち出し、保存すべきものを保存、母屋で使用するものは母屋用にしつらえることといたします！

→11 月 19 日（月）前後に、新館からの物品の移動や母屋の準備などを行うこととしたいと思います。

●村川で活動の提案について（佐久間さん）

・佐久間さんから別紙Ａ３の３枚の資料に基づいて、活性化策について提案、説明がありました。

①樹名板・・・ガイドのみなさんはあったほうがよい意見でした。佐久間さんと相談しながら、文化・スポーツ課のほうで統一的な、景観を乱さないもので順次つけて行くこととしたいと思います。

②ホットな情報を掲示する掲示板・・・可動式のものを採用し、朝、ガイドさんに出していただき、夕方はしまっていただく形で、準備したいと思います。

③書や絵の作品展・・・これは建築基準法等の関係から、ギャラリー的な使用は困難ですが、もっとさまざまな客層の方々を呼び込む工夫は必要と考えています。学校との連携など探っていきます。

④植物の研修をしたい！・・・我孫子市民フェスタでの植物のガイドがある程度できるようにということで、11 月 16 日（金）13:00 から希望者が集まって佐久間さんのご案内で勉強をすることとなりました。月例会欠席者には、電話等で知らせ、出欠は把握せず、荒天の場合には中止、中止か否かの問い合わせは文化・スポーツ課まで・・・ということで実施することとなりました。

●アビコスゴロクのテレビ放映（吉澤さん）

・11 月 11 日（日）8:55～フジテレビにて、アビコスゴロクについて放映される旨ＰＲしてくださいました。

●我孫子市民フェスタについて

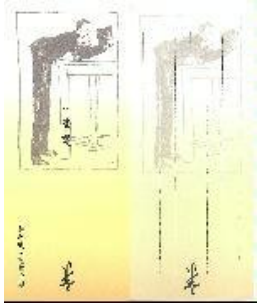
・別紙のシフト表をもとに当日の担当を決めました。結果は、11 月６日の打ち合わせにて確認し、次の月例会の通知とともにお送りしますので、ご確認ください。

～お願い～

前回と同様、空のインクカートリッジを回収いたします。もし、ご自宅にありましたら、次回の月例会のときに回収いたしますので、ぜひお持ちください。

杉村グッズ販売開始！

杉村楚人冠記念館で、新しくグッズの販売を始めました。もしよろしかったらのぞいてみてください。



←一筆箋　250 円

↓クリアフォルダ　250 円

１０月の来荘者数

平成２４年１０月の来荘者数は２６６人でした！

ちなみに　平成２３年１０月　５５３人
　　平成２２年１０月　６３９人
　　平成２１年１０月　５１７人　でした。

次回の月例会は・・・

次回月例会は 11 月 29 日（木）９時３０分からです！日にちがいつもと異なりますので、ご注意ください（＾＾）

旧村川別荘だより

69

平成 24 年 12 月 18 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会　文化・スポーツ課
歴史文化財担当：辻、工藤、種
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583（直通）
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.

月例会が開催されました。

１２月の月例会が行われました。今回は、市民フェスタ開催と重なるため前倒しして、新館の屋根工事がはじまったため、母屋での開催でした。

寒さが本格的になってきました。風邪などに気をつけてくださいね。今月もどうぞよろしくお願いします。

鷲見さん作！
和の空間に合う
クリスマスツリー★

楚人冠と啄木をめぐる人々

１２月の月例会では、杉村楚人冠記念館で現在開催中の「楚人冠と啄木をめぐる人々」についてご紹介しました。

歌人、詩人として有名な石川啄木ですが、その才能が認められるまではなかなか定職に恵まれなかったり、小説の売り込みに失敗したりと、みなさんが「啄木」と聞いて想起されるような困窮した生活を送っていました。

同郷という理由で頼った東京朝日新聞編集部長、佐藤北江（ほっこう）の好意で、明治４２年、啄木は東京朝日新聞の校正係として採用されます。

そして社会部長であった渋川玄耳（しぶかわ げんじ）は無名の啄木の才能を見抜き、朝日歌壇の選者に大抜擢します。その玄耳が啄木の抜擢を手紙で相談したのは、社内で最も強い信頼関係で結ばれた杉村楚人冠でした。

啄木はその後、大逆事件に衝撃を受け、社会主義へ強い関心を抱きます。一方の楚人冠も「余は如何にして社会主義者となりし乎」と平民新聞に書いた程、社会主義者を自称していました。二人は社会主義を通じて親しくなっていきます。

やがて、啄木は結核性腹膜炎に侵され、徐々に出社もままならなくなります。さらに妻と母も病に倒れ、生活は困窮を極めました。明治 45 年、見かねた楚人冠は社内で義金を募ります。

結果、啄木の月給を超えるほどの金額が集まり、啄木は義金を寄せてくれた一人一人に宛てて礼状を書きました。楚人冠への礼状では、義金の一部を使い、病気になる前から欲しかったクロポトキンの『ロシア文学』を欲望に負けて買ってしまったことを告白しています。それを読んだ楚人冠は、怒り、あきれ返りながらも、最終的にはいかにも啄木らしいと感心したことが書簡として残されています。

間もなく啄木は容態が悪化し、その年の４月 13 日、27 年の短い生涯を終えました。

啄木の葬儀は、晩年の親友・土岐善麿（とき ぜんまろ）の生家である等光寺（とうこうじ）で行われました。啄木の追弔会がきっかけで楚人冠は土岐善麿と出会い、そしてその後、公私ともに深い縁となりました。

杉村楚人冠、石川啄木、渋川玄耳、土岐善麿…展示している４人の書簡は、当時の交友の様子を生き生きと伝えてくれます。

企画展示は来年１月 14 日まで開催中です。（ただし 12 月 29 日から１月３日までは休館。）

また、１月６日（日）には、アビスタにて関連講演会を開催予定です。（詳しくは、我孫子市のホームページを閲覧ください。）

我孫子市民フェスタが開催されました！

去る 12 月１日（土）、２日（日）に我孫子市民フェスタが開催されました！

旧村川別荘市民ガイドでは、村川だより６７号にてお知らせしましたように、

写真を見ながら植物の解説中の佐久間さん。
とてもいい笑顔ですね（●^_^●）

①村川親子について語るミニセミナー、②村川の四季、植物をテーマにした写真の展示、をアビスタにて行い、あびこガイドクラブと連携して③アビスタ～別荘内のツアーガイドを実施しました。

当日の盛況の様子を写真で報告します。

▲写真
村川を彩る四季の美しさに、足を止めて見てくださいました。

◀写真
初日のミニセミナーは、板倉さんがお話されました。

写真▶
２日のミニセミナーは、矢野さんが熱弁。

◀写真
初日のガイドツアー後、あたたかいハーブティーでおもてなし。

◀写真
ガイドツアーの様子。みなさん熱心です。

連絡・意見交換など

●1 月の月例会について

平成 25 年最初の月例会は１月８日（火）9:30 から母屋にて行う旨をお伝えしました。

●新館の屋根工事と母屋のトイレ前の床破損について

・11 月 21 日から新館の銅板屋根葺き替え工事がはじまりました。ガイドのみなさんには母屋でのガイド業務をお願いします。

葺替えたばかりのピカピカの銅板屋根☆

また、母屋のトイレ前の床が破損しており、トイレが使用不可となっています。トイレにつきましては、工事中ではありますが、新館をご利用ください。お客様が利用する際はご案内をお願いします。

床の修復完了までご不便をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

●掲示板について

１１月の月例会で佐久間さんからご提案のありました、村川のホットな情報をおしらせする掲示板を設置しました。

可動式のもので、公開時間に門の前に出すことになりました。これからどんどん活用して、村川の良さを発信していきたいですね！

１１月の来荘者数

平成２４年１１月の来荘者数は６０８人でした！

ちなみに　平成２３年１１月　一人（工事中）
　　平成２２年１１月　５６８人
　　平成２１年１１月　２７６７人でした。

次回の月例会は・・・

次回月例会は **１月８日（火）9:30 から母屋**です！日にちがいつもと異なりますので、ご注意ください（＾＾）

旧村川別荘だより

70

平成 25 年 1 月 31 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会　文化・スポーツ課
歴史文化財担当：辻、工藤、種
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583（直通）
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。

平成２５年最初の月例会が開催されました。今年もたくさんの方が旧村川別荘に訪れてくださいますように…。

今年もどうぞよろしくお願いします。

今年の干支、巳の飾り

絵葉書で見る昔の我孫子

今月は、村川家蔵の我孫子の写真絵葉書をヒントに、絵葉書の歴史や絵葉書から昔の我孫子の様子をお話ししました。

１８７１（明治4）年、前島密（まえじまひそか）による郵便制度導入後、１９００（明治３３）年から私製絵葉書の使用が認められるようになりました。

私製絵葉書の使用が開始された時期に、印刷技術の向上、外国への進出が重なり、絵葉書は日本で一大ブームとなります。

きっかけとなったのは１９０４（明治３７）年に発行された日露戦争の「第１回戦役記念絵葉書」。

戦局の内容を絵葉書にした５枚１組のもので、２６万５０００組の絵葉書は即完売、その場で５０銭のプレミアがついたうえ、けが人や死者が出るほどの混乱だったそうです。日露戦争に関係した絵葉書はその後も凱旋記念の式典や行進などがあるたびに発行され、人気を博しました。

絵葉書はほかにも、名所などの風景絵葉書や美人絵葉書など幅広い種類の絵葉書が発行され収集対象として人気でしたが、記念品の定番でもありました。現在でも運動会や修学旅行などの学校行事に写真を撮りますが、その写真を絵葉書にしたり、新しく建物を竣工した際に写真絵葉書を発行したりしていたようです。

また、ニュースや災害等情報を伝えるメディアとしての役割も担っていました。皇室の記念式典、軍の行事、博覧会など華やかな祭典から、震災や水害、列車や飛行機事故の様子まで絵葉書が発行され、組になった写真絵葉書を並べると、時系列に事故や祭儀の状況が分かる構成でした。

新聞も未発達でラジオもテレビもなかったこの時代において、写真絵葉書は私的な通信手段の役割を超えて、遠くの事故や戦争を知るための最も手に入りやすい安価なメディアでもあったのですね。

さて、その絵葉書ですが宛名面と写真面を観察すると、いつ頃作られたものか推定できます。

村川家蔵の絵葉書の宛名面を見ると、次のようになっています。

発行先不明の葉書の宛名面

鈴木商店発行宛名面

平賀商店発行宛名面

絵葉書が使用され始めた当初、宛名面は住所のみの記入しかできませんでした。当時は絵や写真面に文章を書いていたようです。

日露戦争の記念絵葉書でブームが始まった１９０７（明治４０）年頃から、宛名面に文章が記入できる通信欄が設けられます。（3分の１以内）

１９１８（大正7）年以降は通信欄が宛名面の半分に拡大されたそうで、上３枚の宛名面を見るだけでも通信欄の変遷が分かり、面白いですね。

写真面では、写真に映る道路やお店などの建物、映っている人の衣服や履物で年代を推定できます。初夏の月例会で取り上げた、今和次郎（考現学の

提唱者）を思い出しますね。

月例会では、村川家蔵の絵葉書を観察し、どこを、どの方向から見た風景か簡単に解説しました。そのうちの２つを紹介します。

▲　我孫子駅を北東から南西方向に見た写真

▲　手賀沼から見た子ノ神大黒天付近の写真

絵葉書の写真を観察してみると、思いがけない発見があります。見慣れたはずの風景も、後から写真で見ると、新しい発見があるかもしれません。

ひなのまつりについて

今年も鷲見さんのご協力をいただき「ひなのまつり」を実施します！

ポスター用の写真撮影の風景。
鷲見さんも、カメラマンKも真剣！

多くのお客様に見ていただけるよう、2月19日（火）から3月10日（日）と、少し長く開催し、新館が屋根工事中のため、母屋でのみ展示します。2月の月例会で詳細をご連絡予定です。

佐久間さんのアイディア、好評です＾＾

11 月の月例会と村川だより 68 号でご紹介した佐久間さんの村川の活動活性化案、好評です！

左の写真は母屋に飾っている「村川文学散歩」。

村川の邸内に自生する植物の写真と、それにちなんだ短歌や俳句、童謡を紹介しています。来荘者の方から自然と懐かしい歌がこぼれるなど、心温まるガイドのひとコマもあったようです。植物への興味をきっかけに、訪れる方が増えると嬉しいですね。

そのほかお知らせ

●新館屋根工事について

１１月下旬から始まった屋根葺き替え工事について、途中経過を報告します。

銅板屋根を剥がしたところ、下地の木部の腐朽が著しく、また、屋根の反りが各屋根で異なっていることがわかり、工期延長となりました。３月末に工事完了予定です。完成まで母屋でのガイドを引き続きお願いします。

●観光ボランティア協議会の研修・交流会

年が明け、観光ボランティア協議会の研修や交流会が目白押しです。２月はベイ・東葛エリアの交流会や県内各所でボランティアガイドの研修が開催されます。

詳しくは既にお配りしておりますお手紙、または文化・スポーツ課までお尋ねください。

村川活用の新しいアイディアを得るきっかけになればと、編集Ｔもいくつか参加しています！みなさまも奮って参加ください。

１２月の来荘者数

平成２４年１２月の来荘者数は２５０人でした！

ちなみに

平成２３年１２月	０人（工事期間のため）
平成２２年１２月	２２３人
平成２１年１２月	２３８人　でした。

今号の編集を終えて・・・

毎月中旬頃にバタバタとお届けする村川だより。今回は諸事情により２月月例会での配布となり、ご迷惑をおかけしました。次号はお手紙で事前にお届けできるよう、頑張ります！

旧村川別荘だより

平成 25 年 2 月 22 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会　文化・スポーツ課
歴史文化財担当：辻、工藤、種
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583（直通）
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。

２月の月例会が開催されました。

雪がたびたび降るほど寒さが厳しい今冬ですが、皆さんとてもお元気で、寒さもなんのその！

今月もどうぞよろしくお願いします。

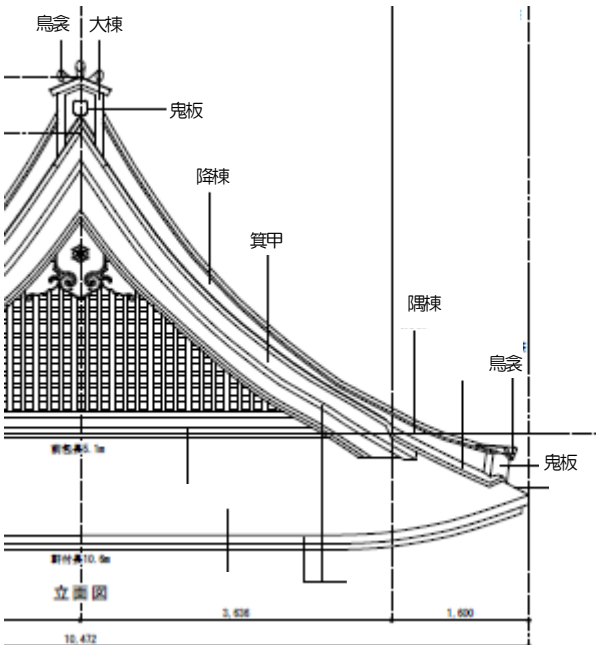
新館の屋根について

皆さんご存知のとおり 11 月下旬より新館屋根の葺き替え工事を行っております。

今月は、せっかくの機会なので、屋根図面を見て、実際に足場に上って現場の見学をしました。

新館の屋根は、銅板葺きで独特の勾配（こうばい）があり、新館の特徴のひとつです。しかし、屋根の具体的なガイドや説明となると、なかなか難しいものではないでしょうか。

図面を眺めると、名前の分からなかった部分や役割がわかり、皆さん「ふんふん…。」と納得のご様子。



↑お配りした図面の抜粋。こちらは立面図。

屋根の形は切妻（きりづま）を大きくとった入母屋（いりもやづくり）造です。

屋根のてっぺんは大棟と言い、屋根同士を合わせる蓋のような役割を持っています。

両端には鳥衾（とりぶすま）がついています。村川だより２２号（平成２０年１２月発行）でご紹介した「経（きょう）の巻（まき）」を覚えていますか？その「経の巻」のことです。鳥に止まり木代わりに休んでもらう…というのが鳥衾の役割ですが、本音は「鳥避け」です。

銅板葺の屋根の場合、降棟は屋根の機能には関係ないそうで、つけたのはおそらく美しく威厳ある屋根の姿のためと思われます。

銅板屋根で降棟（くだりむね）や隅棟（すみむね）のある屋根は非常に希少だとの事で、堅固先生の住居へのこだわりが感じられますね。

図面を見た後は、実物を見学です。

元の屋根の隅棟の先端部分（と鬼板、鳥衾）を見ています。鳥衾はハンダで固定されていました。

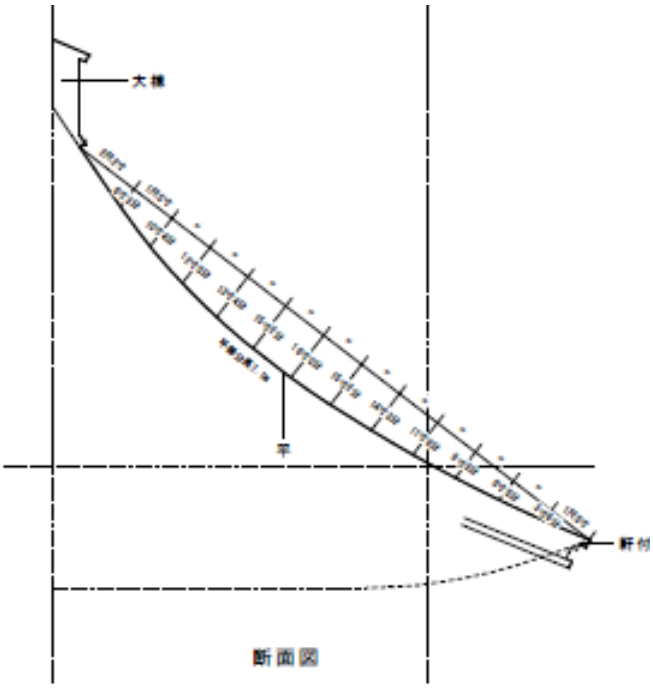
←先端に鳥衾が付いていた跡

足元で実物を見る貴重な機会、みなさん熱心にお話を聞いています。

足場にも登り、間近で施工途中の屋根も見学しました。箕甲（みのこう）や、隅棟は下地の木を少しずつたわませながら、銅板のピースを複雑に組み合わせて

勾配をつけます。

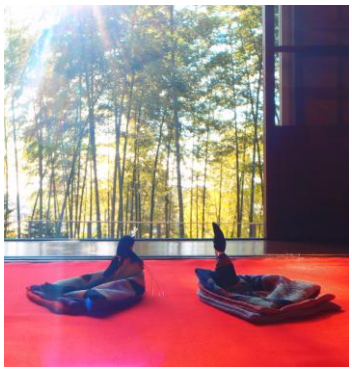
職人さんの腕が一番よくわかる部分で、新館屋根は施工した職人さんが異なるため、実は各屋根の勾配が微妙に違っていることがわかりました。しかし、屋根全体では違和感なく調和がとれているので不思議です。



↓銅板が貼られる前の隅棟下地。見事なカーブ！

屋根の完成は3月末です。新館の公開再開が待ち遠しいですね＾＾

ひなのまつり、はじまりました☆



いよいよ春の訪れを告げる「ひなのまつり」が2月19日（火）からはじまりました。

今年のおひな様は平安朝を彷彿とさせる雅な佇まいで、母屋の雰囲気をさらに盛り立ててくれます。

そのほか、見る人を和ませてくれる家族のようなお人形や毎年好評のつるしびなも一昨年より多く飾っています！

お当番の際にはたくさんのおひな様、つるし雛を愛でてあげてください。

好奇心旺盛なお客様もいらっしゃいますので、繊細な作りの展示物にお手を触れないよう、ご案内をお願いします。

期間は3月10日（日）までです。たくさんのお客様のご来荘、楽しみですね＾＾

そのほかお知らせ

我孫子のいろいろ八景発表会＆八景コンサート

昨年夏に、景観を育てる会が企画運営して市民のみなさんに募集した「我孫子のいろいろ八景」が決定しました。

「我孫子のいろいろ八景」の発表と、記念コンサートが開かれます。

3月16日（土）午後2時開演、あびこ市民プラザ・ホール（旧エスパ）で開催予定です。（入場料 1,000 円）詳しくは、広報あびこ2月16日号および市ホームページをご覧ください。

1月の来荘者数

平成25年1月の来荘者数は　277人でした！

ちなみに

平成24年1月　　0人（工事期間のため）

平成23年1月　　176人

平成22年1月　　193人　でした。

次回の月例会は・・・

次回の月例会は3月1日（金）9時30分から嘉納治五郎別荘跡地建物（三樹荘お隣り）で開催します。

日時はいつもと同じですが、場所が全く異なるため、みなさんお気をつけ下さい！

また、建物内の空調が故障しているようなので、どうか暖かい格好でお越しください。

お会いできるのを楽しみにしています＾＾

旧村川別荘だより

72

平成25年3月18日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会　文化・スポーツ課
歴史文化財担当：辻、工藤、種
〒270-1166
我孫子市我孫子1684番地
TEL:04-7185-1583（直通）
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。

３月の月例会が開催されました。

今回はひなのまつり、新館屋根工事の関係で、嘉納治五郎別荘跡地で開催されました。今月もどうぞよろしくお願いします。

身を寄せ合ううさぎさん♪

家の「間取り」の歴史について

今月は、家の間取りの歴史についてのお話でした。普段何気なく暮らしている家の中ですが、使用目的、社会的役割（共有空間、応接のための空間や個人のスペース）に基づいて分類することができます。

家の間取りを決定する要因は様々で、家の建て主である施主や家族の意向、有名な建築家など、建築家の理想やイメージが強く反映されることもあります。また、法令や地形的制約、風水や占いで建物の形や土地に対する配置、お部屋の向きを決めることもあります。

では、間取りはいつ頃からあったのでしょうか？すでに古墳時代の竪穴住居には、居間と寝間を間仕切りで区別していたことがわかっています。

平安時代の寝殿造り

平安時代に入ると貴族の邸宅は「寝殿造り」、武士のそれは「武家造り」と、身分別に設けられるようになりますが、建物単位で使用目的を区別していたようです。

室町時代には「書院造り」「数寄屋造り」の建物が建てられるようになります。床の間や違い棚などは、現在の和風建築に受け継がれていますね。

薬医門（旧井上家住宅）

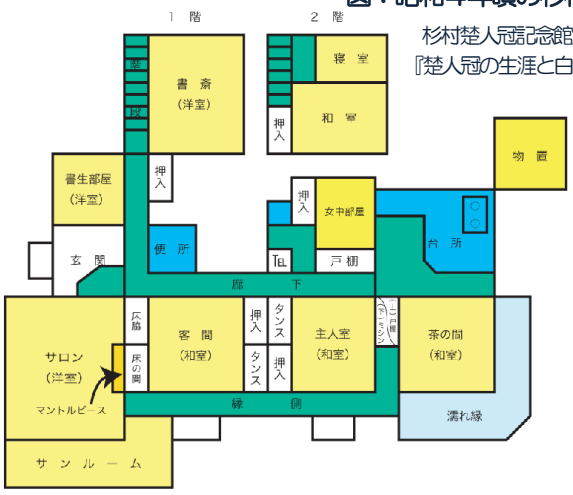
江戸時代になると、玄関や床の間、門の有無など、地域（藩）や身分による建物の規制がありました。式台のある玄関は、一般庶民が勝手に設けることはできませんでしたし、薬医門を設けるにはそれなりの格式が求められました。

また、中流以上の邸宅では、身分に応じた（応接用、家人用、使用人用など）玄関、客間（座敷）と次の間は重要視されました。

江戸時代の身分制度が崩壊した明治以降、「間取り」は大きく変化します。

非日常的な儀礼の簡略化から饗応空間の縮小、文明開化から、西洋建築の様式が導入されるなど、住まいを見直す機運が高まり、家族の共有スペースが南側に配置されるようになりました。現代の住まいの大原則ともいえる「日当たりのよい良い南側にリビング」というのは、この頃から始まったのですね！

図：昭和４年頃の杉村家の母屋



杉村楚人冠記念館解説書
『楚人冠の生涯と白馬城』より

また、「個人」の意識が西洋からもたらされ廊下が生まれ、畳敷きの純和風住宅の中に洋室が取り込まれた和洋折衷住宅が誕生しました。

間取りの変遷を紐解くと、社会的通念や常識の変遷もわかり、興味深いですね。

ひなのまつり、大好評でした！

村川春の風物詩「ひなのまつり」が3月１０日、大好評のうちに終了いたしました。

平安朝を彷彿とさせる雅な佇まいのひな人形をはじめ、つるし雛や手作りのお人形たちをたくさんの方が見に来てくださいました。

↑　平安朝を彷彿とさせる新作！

↑　雅な貝合わせを再現

期間中の来荘者数は、なんと１６２７人！

新聞やミニコミ誌の記事でひなのまつりを知り、初めて訪れた方はもちろん、毎年楽しみにされているお客様が新しいお客様を連れて来て下さり、そのお客様がまたご家族やご友人を連れて来て下さって・・・と、口コミで来てくださる方が多かったです。

ひと針ひと針、本当に細かいところまで心のこもった作品の評判が、人づてに伝わって、それをきっかけに村川の良さを知っていただけるひなのまつり。早くも来年が楽しみですね♪

↑春らしいお着物を着て解説中の鷲見さん

ガイドのみなさん、毎日皆勤で展示の説明に当たってくださった鷲見さん、そしてお手伝いに来て下さったみなさん、本当にありがとうございました！

写真絵葉書展について

ひなのまつりの盛況冷めやらぬうちに「第１１回文化財展　―セピア色の寫眞から―我孫子写真絵葉書展」が始まります！

↓　我孫子町駅前通りの櫻花

今年最初の月例会でお話しした、写真絵葉書の話をバージョンアップして展示します。

期間は3月１９日（火）から6月 15 日（日）まで、春の散策がてら、足を運んで下さる方に期待ですね。

ガイドのみなさん、よろしくおねがいします。

春の散策にどうぞ

❀市民観桜会❀

景観を育てる会主催で市民観桜会が開かれます！4月1日（月）午前１０時から午後4時まで（入場は午後3時まで）、我孫子ゴルフ倶楽部（１３・１６番コース周辺）の桜を見ることができます。五本松公園向かい側の入口からお入りください。詳しくはチラシを参照ください。事前申し込み不要とのことですので、お天気に応じて出かけてみてはいかがでしょうか。

☺春の三館スタンプラリー☺

今年も白樺文学館、杉村楚人冠記念館、鳥の博物館の三館を巡るスタンプラリーを開催します！

期間は3月１９日から5月１９日まで、三館、アビスタ、アビシルベに設置の台紙にそれぞれのスタンプを集めると、記念品と交換できます。（入館料別途）奮ってご参加ください＾＾

2月の来荘者数

平成２５年２月の来荘者数は　８８２人でした！ひなのまつり効果で、１日の来荘者数が１００人を超す日も4日ありました。

ちなみに

平成２４年2月	０人（工事期間のため）
平成２３年2月	９５０人
平成２２年2月	７７８人　でした。

次回の月例会は・・・

次回の月例会は4月 １ 日（月）９ 時３０分から旧村川別荘新館で開催します。

銅板葺き屋根工事も終了し、5か月ぶりの新館での開催です。どうぞよろしくお願いします。